

授業科目(ナンバリング)	介護総合演習Ⅱ(介)(DB315)			担当教員	石橋 亜矢		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この科目は、3年次実習「介護実習Ⅱ」として、 <u>介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を身につけることとする。</u> 実習は、学んだ全ての知識・技術を統合させ、指導を受けながら、実際に介護実践をし、様々な状況に応じた支援方法について学ぶ機会である。介護実習Ⅱは身体障害者や在宅高齢者サービス事業所の実習で、これらのサービス事業所についての特徴や内容について理解をし、介護展開する力を身につける。また、障害者・児事業所、高齢者在宅介護サービス事業所の理解と各事業所の利用者の生活問題について、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどを通して、考察を行い表現できるスキルを身につける。この演習を通して、専門的知識・技術を修得し、それらを様々な課題に適用して解決を図ることができることをねらいとする。							①④⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	実習先の概要や組織、その利用者について理解し、説明することができる。				課題レポート ディスカッションの内容	30% 20%	
情報収集、分析力	実習先の機関や組織、利用者の問題点などについて情報を収集し、それらを分析し思考する力を身につけることができる。				課題レポート	20%	
コミュニケーション力	実習先の機関や組織、利用者の介護について、実習に関する課題について、自分の考えを明確に文章・口頭などで、伝えることにより、相互理解を図り、深い考察を行うことができる。				課題レポート ディスカッションの内容	10% 10%	
協働・課題解決力	実習課題を的確に把握し、施設スタッフと協力し課題解決に向けた計画を立案し、着実に実行することができる。				課題レポート	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
実習に向けた課題(レポートと個人票作成)を確実に遂行することができたか、授業中の「ディスカッションの内容」(30%)、討論への参加度合いを評価する。「課題レポート」(70%)は、実習先の概要や組織、各制度、実習計画(個人票)を作成し、ポートフォリオ上に提出する。グループワークを通して自分の意見をまとめ、他者へ伝えていけるように、授業内で口頭にてフィードバックを行う。							
授業の概要							
医療現場で看護師・介護支援専門員等の資格や経験をもつ教員が担当し、現場実践を活かした学修を行う。介護総合演習Ⅱは、3年次実習に必要な知識や技術について、今までに学んだ内容を教材として、主体的な学修で授業を展開する。学生の学修到達状況に応じグループワークでのディスカッションを通し、個別指導を実施する。各教科の統合、各施設・事業所など、実習先の理解、介護の知識と技術の確認、実習後の振り返りを行い、課題を明確にする。特に介護過程と具体的な統合を意識して行う。実習ORや指導は、学内外・授業時間外、又、ポートフォリオを通して実施する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
参考書：最新・介護福祉士養成過程10 「介護総合演習・介護実習」 2018年 中央法規出版 長崎国際大学介護福祉実習要綱・本学実習関連書類・記録等 その他、必要に応じて資料を提示する。 指定図書：久田則夫『福祉の仕事でプロになる』 中央法規 2016年							
授業外における学修及び学生に期待すること							
介護実習を意識した知識や技術を再確認する。また、実習課題の整理を行うこと。実習課題がクリア出来るように個別のレベルに応じた指導を実施する。指導された内容は、素直に受け止め、柔軟な発想ができる様な心構えをしておく。授業外の日程においての集中指導を行うので、スケジュール管理は必須であるため、各自で適宜確認すること。注意点：講義中の私語、携帯電話の使用は禁止とし他者に迷惑をかけること。また欠席の場合は必ず事前連絡を行うこと。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	介護実習 I の振り返り	シラバスで科目内容の理解、介護実習 I での評価・課題を踏まえて、新たな目標について確認	予習：介護実習での課題レポート提出 復習：本実習の目標整理
2	実習現場について①	利用者の理解（在宅高齢者について） 利用者の理解（障害者（児）について）	予習：在宅高齢者、障害児について調べる 復習：追加内容を確認
3	実習現場について②	事前に実習施設についての理解、障害者（児）施設の概要について、在宅高齢者を支える社会資源の概要の理解、利用者の理解	予習：施設の概要を調べる 復習：社会資源をまとめる
4	知識・技術の統合①	各種関連する法律に基づく支援体制について（介護保険法・障害者総合支援・児童福祉法等）	予習：介護・総合・児童福祉法について調べる 復習：法律をまとめる
5	知識・技術の統合②	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法の確認 安全・安楽な介護、自立生活支援に向けた介護技術の提供などの確認（移動・移乗介助など）	予習：移動・移乗について資料を確認する 復習：移動・移乗介助確認
6	知識・技術の統合③	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法の確認 安全・安楽な介護、自立生活支援に向けた介護技術の提供などの確認（排泄・食事介助・口腔ケアなど）	予習：排泄・食事介助・口腔ケアの資料確認 復習：授業実施内容確認
7	知識・技術の統合④	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法の確認（身だしなみ・入浴・清拭など）実習事業所・機関の主な業務内容・介護目的と意義のまとめ	予習：身だしなみ・入浴・清拭の資料確認 復習：授業実施内容確認
8	知識・技術の統合⑤	実習事業所・機関の主な業務内容・介護目的と意義のまとめ、実習記録の書き方、実習個人票、実習目標・実習計画表（自己の課題を明確化、専門職としての態度を養う）を作成する。	予習：実習計画案を作成 復習：実習計画書作成
9	知識・技術の統合⑥	実習記録の書き方、実習個人票、実習目標・実習計画表を作成する。課題について討議を行う。	予習：個人票案の作成 復習：個人票の作成
10	実習施設と連絡その他①	実習ガイダンス、危機管理・個人情報保護・守秘義務・プライバシー保護等について確認	予習：個人票の作成修正 復習：個人票の完成
11	実習施設と連絡その他②	実習施設での事前のオリエンテーション、実習目標や課題、実習計画について確認	予習：実習目標案の作成 復習：実習目標の完成
12	実習施設と連絡その他③	実習ガイダンス、危機管理・個人情報保護・守秘義務・プライバシー保護等について再確認	予習：守秘義務内容の確認 復習：プライバシー保護の確認
13	事例研究	介護実習事例の考察、施設実習概要の発表 お礼状の書き方	予習：発表資料準備、出された事例について考察 復習：実習時のイメージが出来るようになる
14	配属先についてのオリエンテーション	実習先において施設の内容や機能について、調査した内容、実習の内容について確認を行う	予習：実習課題確認、実習使用物品準備、お礼状作成 復習：実習前指導内容確認
15	実習直前オリエンテーション	最終オリエンテーション、健康状態の確認などを行う 健康状態などの確認などを行う	復習：不足分確認